

C 主要史料（○番号は、B年表と対応。史料タイトルは簿冊目録による。「」内は翻刻者で追加したもの。）

●史料1 『防長風土注進案』第六卷 上関宰判 下（山口県文書館編、1983年、マツノ書店）

大島郡上関御宰判長嶋之内

上関  
同浦  
戸津  
白井田  
四代  
蒲井

一惣家数式百七拾貳軒  
（中略）  
上関浦方

内

本百姓 本軒持

八拾五軒

三軒 半軒持

内

五拾四軒 商人

壹軒 船大工

三軒 船持

六軒 漁人

四軒 船手持

三軒 紺屋

拾貳軒 農人

壹軒 茶屋

貳軒 客屋

貳軒 豆腐屋

門男百七拾八軒

内

六拾八軒 商人

四軒 家大工

貳軒 船大工

拾八軒 船持

拾六軒 漁人

壹軒 鍛冶

貳軒 挑燈張

貳軒 張物小細工

貳軒 桶屋

貳軒 紺屋

貳軒 豊刺

貳軒 茶屋

貳軒 髪結

壹軒 石組

地下寺三ヶ寺

社家壹軒

地下医師貳軒

一口数千四百拾老人

内

男五式拾四人

内

年寄貳人

庄屋老人

御茶屋御用闈壹人

年行司貳人

女五百三拾九人

僧拾四人

社人貳人

医師三人

茶屋手代男五人

同断湯女五拾四人

（中略：上関宰判まとめて）

一雑戸

茶屋三軒

人数五拾九人

内 湯女五拾四人

手代男五人

一牛式百七拾式匹

一廻船九拾三艘

(中略)

一風俗

正月元日

(中略)

同二日

(中略)

同日晩天三茶屋湯女廻礼仕、惣而今日地下中之者氏

神寺院親類知因等之

浅深二応し、百疋五拾疋と号拾式銅六銅封緘し年始之佳儀を表し、五二勤合仕

候事

同日鳴々役人中庄屋元へ参り年始之規式仕候事

(中略)

一産業

耕作漁事諸商売心を用候得共、田畠戸数二当田式畝余畠老反余二相当り、土地

詰之所柄故峪々峯尾際迄寸地も不残開立候儀二而足場不立、耕作難渋之所二而

殊二纒之田園世業行足不申二付、暇有時ハ繩草履其外産業相営、女子ハ老幼共

績織海草纒之類を採渡世之一助二仕候、浦方之儀ハ諸国廻船交易売買之中買商

人間屋商売店売茶屋客屋等仕候者御座候、最田畠所持之者ハ農業出精仕、地録

(禄)無之者ハ中脊日傭船手稼風呂呂屋豆腐屋等仕、女子ハ地方同様績織海草杯

採渡世仕候、年中出来立物左二記：(後略)

●史料2 『防長風土注進案』第二六卷 吉田宰判(山口県文書館編、1983年、

マツノ書店)

長門国吉田宰判風土記 九

豊浦郡之内

今浦御開作

(前略)

一家数竈数之事

家数百四拾壹軒

竈数百三拾竈

内 本軒 拾三竈

門男 式百拾七竈

此内

農家 六軒

酒造 壹軒

醬油屋 壹軒

太物細物店 三軒

漁船持 拾軒

古手店 式軒

綿屋 式軒

材木屋 壹軒

桶屋 三軒

畳屋 三軒

陶手間 五軒

たばこや切 七軒

細物屋 六軒

縫箔師 壹軒

塗師 壹軒

石工 壹軒

船鎧師 壹軒

洗張屋 式軒

飴屋 壹軒

豆腐屋 三軒

宿屋 式軒

風呂屋 式軒

一口数九百七拾壹人

内

大庄屋 壹人

御用達 三人

算用師 壹人

質屋 三軒

呉服店 壹軒

揚米屋 五軒

茶屋揚酒屋 四軒

茶屋并二諸国廻船小宿共二六拾九軒

古道具屋 壹軒

茶屋女置屋 五軒

家大工 拾軒

かじや 三軒

陶師 壹軒

煙草屋 三軒

瓦師 壹軒

瓦師手間 壹軒

袋物仕立屋 三軒

金具師 式軒

付木屋 式軒

寺子屋 壹軒

紺屋 三軒

まんぢうや 壹軒

肴店 五軒

日用 四拾軒

かみ結 式軒

●史料3 『防長風土注進案』第七卷 熊毛郡宰判

年寄 式人

畔頭 壹人

飛脚番 式人

目明 壹人

男 四百拾四人

女 四百三拾七人

旅人 五人

男 五人

旅人 五人

女 百四人

(中略)

一風俗

地方 同

岡の原 宮ノ後

但此両村ニ農家五六軒御座候処、是ハ農業之外産業等他事なし、尤四季野菜

物を作り、不断閑市中へ売歩行渡世之一助ニ仕候事

東西

新地市中

但当中中之儀は本往還筋と申ニても無御座、格別産業迎も無之、多くハ茶屋

又は諸国廻船之小宿等仕候者計ニて御座候、尤こま物荒物味噌醬油揚酒白米

其外諸商ひ仕候者も数軒御座候得共、疋と渡世ニ相成候程之商人は至而無数

御座候、専ハ右之通茶屋小宿又は諸職人日用口等ニて、且々当日之取渡り仕

候者計ニて御座候事

一市中中行事

正月 (中略)

元日ハ茶屋女中年禮廻りとして伊崎浦辺まで家毎に祝詞を述、歩行候事先年よ

りの例に御座候、尤近年は元日に限り不申、十一日比に歩行候事も御座候事

(後略)

(山口県文書館編、1983年、マツノ書店)  
熊毛郡室積浦風土記 十二  
熊毛郡熊毛御宰判之内室積浦

(中略)

一港老ヶ所

但当港之儀は燈籠堂出張ヨリ地原と申所之岬迄東西港口拾五丁程、港内廻り拾

三丁四拾間程御座候

東風謂ニ御座候処、何風ニ而も凌能、西国ニ而ハ無類之港ニ而御座候、当港之

内御手洗と申ハ人皇拾五代の帝神宮<sup>功</sup>皇后三韓<sup>甚</sup>に起き玉ふ折から、此津に御船

を維せ玉ひ御手を洗ハせ給ふによつて御手洗と名つけたりと申伝へり

西行法師撰集抄に

性空上人ハ日比法華誦誦の功にまさつて、まのあたり普賢菩薩を押し奉らんと

七日祈念し給ひ、七日の暁、天童来つて室の遊女か長者をおかめ、(中略)

一家数五百八拾間

内

本百姓百五拾式軒

此内

八拾軒 本軒

六拾軒 半軒

拾式軒 四半軒

拾老軒 問屋

式軒 魚問屋

三拾七軒 商人

此内三軒廻船持

老軒 家大工

拾四軒 船大工

老軒 紺屋

式軒 鍛冶

式軒 畳刺

老軒 左官

三拾式軒 舸子日雇持中師共二

四軒 煮完屋

拾九軒 廻船持  
式拾五軒 漁人  
門男四百式拾八軒 茶屋

此内

壹軒 問屋  
式拾六軒 商人  
三軒 家大工  
九軒 船大工  
四軒 左官  
五軒 桶大工  
壹軒 車大工  
八軒 鍛冶  
三軒 紺屋  
式拾式軒 廻船持  
九拾式軒 漁人  
式百四拾五軒 舸子日雇持中師共二  
八軒 煮売屋もち屋  
壹軒 茶屋

一人口数式千四百六人

内

男千式百式拾四人

内

庄屋壹人  
年寄式人  
畔頭式人  
女千百七拾七人  
僧数七人  
医師式人  
地神経読盲僧壹人  
座頭三人  
瞽女四人

(中略)

一風俗年中行事

(中略)

南町

但当时之儀は、酒場・問屋・中買・廻船乗・煮売屋・小店・其外日雇・飛脚等  
仕、屋敷端有之者は少々菜園作り候節も御座候、尚又港繋り之旅船、普賢へ参  
詣風呂杯江入候後、茶屋子供招キ酒宴仕候ものも間々有之、其中ニは諸商ひ之  
相談も出来仕候事多ク有之、彼是ニ而渡世仕来候事

(中略)

一新町之事

但江川ニ東往古家数百五拾四軒有之、殊之外家作り重々ニ而、諸人通路諸道具  
等持運ひ等ニも差間、第一常々火用心無心元、明和四亥年大庄屋井上與三左衛  
門・浦庄屋原田瀬兵衛・年寄磯部三郎左衛門・同幸之助役中、町直り之儀ニ付  
仕組楯を以、室津浦之儀ハ先年湯屋式軒有之候内、一軒中絶仕居候处、当港余  
分之繫船場ニ御座候得は、湯屋壹軒取立仕度、左御座候ハ、立銀ニも仕らせ町  
直り仕組立、余慶ニも相成候儀ニ付、新町江湯屋壹軒取立度段をも御願申上候  
所、明和四亥八月御免被仰付、今以繁昌仕候事

●史料4 伊藤氏所蔵文書『関二千年史』(大正四年、関開史談会編) 掲載

御請状之事

一兼々被仰渡候従

御公儀様御制法之旨、堅可奉相守候事

一従先年度々被仰付候御家中御藩士様方引請、傾城買を申間敷候段、奉得其旨候事

一御諸士様方より踊御座被遊候共仕間敷候、尤御見物等手引一切仕間敷候事

一市中問屋衆中より旅人詭之踊は格別、町向衆中より被相頼候踊は仕間敷候事

一傾城共揚屋之外町向又は浜辺・野辺罷成候儀兼而御法度に被仰渡候、御免之外向

後門外江出し申間敷候段、被仰渡奉畏候事

右一ツ書之通被仰渡奉得其旨候、前廉度々被仰付候处、近年猥に相成候様に被為聞

召上、一廉可被仰付候处に御慈悲を以御赦免被為仰付難有奉存候、然上は向後月並

私共寄合友詮議仕、御法度之旨可奉相守候、万一相背候者御座候は、御仕置に可

被仰付候、為後年連判之御請状差上申処如件

元文五年申九月

唐津屋安左衛門殿  
尼崎屋安太夫殿

稻荷町	宮屋助左衛門	軈屋七左衛門
生野屋伝吉	丸屋徳右衛門	岩見屋万次郎
大阪屋友十郎	山口屋かつ	増屋長左衛門
鳥屋後家		
奥小路町		
硯屋市九郎	福島屋孫兵衛	池田屋仁左衛門
丸屋貞兵衛	鹿見屋惣左衛門	京屋理右衛門
奈良屋彦兵衛	桔梗屋作左衛門	橋屋仁兵衛
魚屋甚六		

●史料5 下関市立豊北歴史民俗資料館所蔵中川家文書

『豊北町史』・『山口県史 史料編 近世6』掲載史料、ここでは『山口県史』から引用)

御断申上候事

一茶屋老軒

但、居風呂・蕎麦等仕、垢かき女五六人差置申度奉存候事

右肥中・特牛両浦之儀ハ、御宰判ニ而抽大石之儀ニ御座候処、前々少少之漁業をも不仕、御納所及差間、漸廻船之舸子等仕、且々御立銀上納仕候、右浦石ニ応し例年上納之鯛、御上下之水夫其外相欠銀大段之儀ニ而至極難儀仕、渡世之方便ニ絶果罷居申候、尤肥中・特牛共湊能所ニ御座候ニ付、他国之廻船不絶繫船仕儀ニ御座候へ共、右之通貧窮之所柄故、有徳之者無御座、諸商ひ少しも不得仕候ニ付、全書之通茶屋御差免被成被遣候ハ、小躬之者共相応之小商ひも可有御座、左御座候へハ諸廻船も余分入津仕、自ラ地下之競ニ相成可申と奉存候、尚亦茶屋株受負ニ仕候得ハ、少々地下勝手之筋ニ相成申儀ニ御座候間、偏ニ御了簡を以御差免被遊被遣候様奉願候、諸べり之儀ハ随分手堅ク念を入可申候、此段宜被仰上可被下候、奉頼候、以上

宝曆十三末

正月

肥中浦年寄

足立次郎右衛門印

同

安井半右衛門印

御庄屋代

多賀孫之進殿

右前書之通、両浦至極及困窮難儀仕罷居候間、何卒願之通御差免被遣候ハ、小躬之者共取統之便りニ相成申儀ニ御座候間、偏ニ宜被成御沙汰可被下候、以上

庄屋代

多賀孫之進印

同日

大庄屋

藤野治左衛門殿

右前書之通申出候間、宜被成御沙汰可被遣候、以上

大庄屋

藤野次左衛門印

同日

青木平右衛門殿

●史料6 下関市立豊北歴史民俗資料館所蔵中川家文書

『豊北町史』・『山口県史 史料編 近世6』掲載史料、ここでは『山口県史』から引用)

御願申上候事

肥中・特牛両浦之儀ハ浦石六拾老石余、右ニ応シ御上納鯛、水夫其外浦方へ当候上納物余分之儀ニ御座候処、前廉ハ鯨組等相立繁昌仕居候得共、今ほど両浦共ニ弥増(不脱)相裁次第及困窮儀ニ付、廻船繫船為繁昌、宝曆年中御断之品有之、茶屋老軒取立

之御願申出候処、往々相栄候ハ、可被差免ニ付、御代官所御聞届を以取立仕見候様ニとの御事ニ而、其砌以今相立居、浦方競ニ相成難有奉存候、其後明和年中老軒ニ而難行届ニ付、出店として亦々老軒取立仕、御聞届相成被差免候処、五六ケ年も取続居候得共、世話人仕入不立、其上諸色高直ニ而損亡有之、中絶仕居申候、然ル処此度赤間関伊崎町蛭子屋庄助と申者罷越、右中絶之出店株取立仕度相願申候、於地下ニも口銭取渡世之便り相成儀ニ御座候間、被差免被遣候様奉而御願仕候儀ニ御座候間、此段被聞召届被差免被遣候様ニ、宜敷被仰上可被下候、奉頼候、以上

寛政六寅ノ

四月

肥中浦年寄

九郎右衛門印

特牛浦同

彦左衛門印

御庄屋

多賀百助殿

右前書之通、兩浦至極及困窮難儀仕罷居申候間、何とそ願之通御差免し被成被遣候ハ、小躬之者共取続之便り相成申儀ニ御座候間、偏ニ宜敷被成御沙汰可被下候、以上

庄屋

多賀百助印

同日

大庄屋  
久保源兵衛殿

右前書之通申出候間、被成御沙汰可被遣候、以上

大庄屋

同日

藤本伝兵衛殿

久保源兵衛印

（裏書）

一 裏書ニ有之

本書尋常之儀ニ而ハ難及沙汰事ニ候得共、当時困究之浦方為取続敷出、詮儀之上以前之格も有之事ニ付、先少御代官所聞届差免候条、ベリ好取捌候事

●史料7 下関市立豊北歴史民俗資料館所蔵中川家文書

『豊北町史』・『山口県史 史料編 近世6』掲載史料、ここでは『山口県史』から引用）

書変之事

特牛浦茶屋株之儀ハ、宝曆十三末ノ肥中・特牛兩浦難澁筋申立、地下為ニ一先御聞届被仰付、夫已来取続候内、明和年中老軒ニ而ハ難行届ニ付、亦々出店株老軒願出御聞届相成、其後出店之方ハ中絶仕、前断宝曆年中御免之分、近年下ノ関ニ順藏と申者罷越世話仕候得共、是も取続不得仕、当五月下ノ関へ引取申候、依之兩浦地下中申合を以、当夏下ノ関北国屋甚左衛門と申者、右出店株之分、来ル酉

ノ年迄往キ五ヶ年之約束ニシテ請負仕せ、先達而シ入込商売仕候処、古茶屋株ニ付而ハ、貴様方先年仕入之貸銀相滞、就中天明七末ノ年茶屋甚左衛門請人喜八、後年ニ懸候而之ベリ書物等有之、旁年来諸世話をも御調候由ニ而願書被差出、地下も委細答書申出候ニ付、於御勘場ニ双方之申分御聞合之上、段々内済之御取扱相成候、廉々左之通御座候事

一 此度明和年中御免之出店株取立可申目論見候得共、宝曆年中ニ被差免候茶屋発端之株ニ候へハ、先ハ右之株へ対シ取立可然との御事、左候而元来地下為之申立を以御免相成候事ニ付、全兩浦惣中之茶屋株無紛事ニ候へ共、前文之通前廉抽諸人ニ大銀仕入御貸渡御迷惑ニ付而は、天明年中ベリ印形物も有之、尚亦前後之心遣等ニ対シ、此度北国屋甚左衛門へ五ヶ年限約束受負錢之内、年別八九三百五拾目宛地下浜立錢トシテ、兩浦年寄元へ相調可申、左候而後年之儀も貴様諸世話引受ニシテ無怠転様取続せ、仮令時節柄ニ依リ茶屋盛衰等請負錢ニハ増減有之候而も、年々浜立銀三百五拾目之儀は、定法ニシテ無滞年寄元へ相備り候様御取計可相成段堅ク申合候儀ニ付、茶屋一軒ニ付而ハ、兼々兎や角と地下ニ之存寄筋無之様申談置候事

一 前断之通、浜立錢後年定法ニシテ諸世話御引受之筈ニ申合候上ハ、往々無余儀茶屋相止候義有之候也、浜立錢約束前ハ年々無滞可被相調、万一及不納候ハ、諸世話地下へ引取取計候而も、已後御懸り合無之筋申合置候事

一 只今入込居候北国屋甚左衛門へ仕入銀數筋有之、兩浦三金子三拾兩貸渡之分、自今貴様方世話御引受ニ相成候上ハ、右三拾兩利懸旁約束之辻を以、早々兩浦へ元利調切候様御取計可相成段申合候事

一 前文之通、此度古株取立相成候上ハ、明和年中御免之出店株取立候期ハ有之間敷事ニ候へ共、万一往々年數相立候内、茶屋繁昌之時節も有之候ハ、地下折合之上御役座へも申出、取立可申儀も有之、其節古茶屋之方ニ無筋之故障申立無之様ニとの義申談置候事

右之通此度内済御取扱ニ付、御入割をも被仰聞、双方落着仕候上ハ、已来万事折合能聊無相違様取計可申候、仍而為後念私共地下惣代トシテ書替印形相調差出置申候

天保四己

七月

肥中浦

次郎左衛門印

同

清五郎印

同

弥一郎印

特牛浦

虎松印

同

与兵衛印

同

平蔵印

河野源兵衛殿

右之通双方折合致内済候段相違無之候、後年為べり之奥書印形相調置申候、以上

同日

特牛浦畔頭

津田野長左衛門印

同浦年寄

利兵衛印

肥中浦年寄・畔頭

新之助印

庄屋

久左衛門印

右之通双方致落着候段無相違ニ付、奥印相調置申候、以上

同日

大庄屋

久保平右衛門印

一右種類之者改業又ハ死亡致候時二届出サセ各支庁會議所ニ於テ此度差出候人員  
附ヘ書入可致候事  
右此度從大藏省御達之趣モ有之候付取調早々可申出候事

●史料9 山口県明治期布達類の『山口県布達達書 原稿 明治五年前・後』  
『婦女子の遊女芸者等での』身売奉公禁止ノ事

当県管内在町之婦女子年季ヲ定メ遊女芸者并宿場飯盛茶汲女或ハ洗濯女其他種々  
名目ヲ付ケ身売奉公ニ差出候儀向後一節不相成候

一是迄右躰之奉公ニ差出有之分ハ抱主ヘ示談ヲ遂ケ可相成丈ケ速ニ引戻シ候様可  
致候

右之通及布告候条可得其旨若相背候者有之ニツイテハ屹度可及吟味間此段可相心  
得候也

●史料10 山口県明治期布達類の『山口県布達達書 原稿 明治五年前・後』  
娼妓解放ノ事  
壬申十月

別紙之通被仰出候付テハ、娼妓芸妓其他同種類抱ヘ渡世之者共厚キ御趣意ヲ体認シ  
奉リ、各家抱ヘノ婦女共身元又ハ親類等有之分ハ、速ニ掛合致シ無之ハ親分請人等  
之立会ヲ以テ本人引渡シ可致、尤身代金其外金銭出入之儀ハ、總テ本人又ハ親族等  
ト双方相對ヲ以可遂、示談勿論之処為是新ニ奉公証書差入サセ、或ハ支リ筋申立等  
之束縛致シ置キ候様之所置ハ、決テ不相成候条、金銭出入之有無ニ拘ラズ總テ一切  
致解放候儀ト相心得右取計濟之上、夫々可届出候

別紙

一即今抱ヘノ者之内、当壬申二三歳以下之分ハ、本人身元或ハ親類ヘ速ニ引渡仕候  
儀勿論ニ候得共、若又可引取見寄モ無之分ハ他奉公当人之望ニ任スヘク、尤身分  
〔掛候金銭出入ハ別テ勘弁ヲ第一トシ強テ取引不致儀ト可相心得候

一遊女其外年期奉公証文抱主所持ノ分不殘及取揚候条、支庁會議所等ヘ副戸長ヨリ  
速ニ可差出候

●史料8 山口県明治期布達類の『山口県布達達書 原稿 明治五年前・後』  
女芸者其他〔人員〕取調ノ事

一女芸者遊女其外茶汲女総嫁飯盛杯ト称シ、是迄遊女同様之營業差免来候者、現今  
之人員早速取調、今月限り可申出候

但抱主ヨリ各名附出シ致シ置キ、各支庁會議所ヨリハ惣計而已可差出候、尤某  
所女芸者幾人遊女幾人某所女芸者幾人総嫁幾人杯ト書分ケ可差出候事  
一是迄右種類之者無之処ニ於テ新規營業差許候儀決而不相成事

一右種類之者今般附出シ人員ヨリ相増候儀ハ勿論死亡或ハ改業之跡補亡之為メ更  
ニ別人抱入候儀トモ決テ不相成候事

但右ニ付貸借訴訟一切取揚ケ不相成候、尤地主ノ恩議（ママ）ヲ請ケ候儀モ有之事ニ付、不都合之始未致ス間敷候

一娼妓芸妓其他トモ原籍ニ可差返ハ勿論候得共、若立帰活業之見込無之ニ付、改業居住致度情願之者ハ可申出、本管（貫力）懸合之上入籍可申付候

一同断之者抱主之手ヲ離レ、改業寄留奉公持致度者ハ可申出、吟味之上ハ差許ヘク候

一遊女芸者其他同種類ニテ全ク人之抱相成候者ハ一切解放身元引取可為致、尤当壬申拾三歳以下之小女見寄有之分ハ勿論引取可為致、見寄無之別奉公相望候者ハ可及免許、本人若シ病身又ハ幼年ニテ別奉公モ難相成分ハ教育之道無之テハ忽飢餓難済之場合ニモ可相成ニ付、教育場可設置候  
右及揭示候也

●史料ニ 山口県明治期布達類 『山口県布達達書 原稿 明治五年前・後』  
娼妓解放取計規則

壬申十月

今般娼妓芸妓其他同種類之者ハ解放可致旨被仰出候付取謀之規則左之通可相心得置候

一娼妓芸妓其他抱主之手ヲ放レ身自由ニ相成候上ハ、速ニ其身本又ハ縁故ヘ引取り、身寄無之分ハ可成丈ケ改業可致ハ勿論ニ候得共、事故有之候テ本人之望ミヲ以遊女所業致シ度相願候者ハ、其情実ヲ委敷書シ、本人親類組合連印ヲ以可願出、親類無之分ハ本人并組合請人等連印願出候ハ、取調之上免許之吟味ニ可及候  
一同種類抱ヘ渡世致候儀ハ、向後堅ク禁制ニ候間、可成丈改業可致ハ勿論候処、一時差間有之分ハ更ニ貸座敷渡世可願出候

但貸座敷渡世之儀ハ、此度相定候テ所内ハ願次第イツレニテモ差許候

一遊女渡世之者為稼糈リニ他街ヘ出行シ、又ハ沖合碇泊之船々立越候儀決テ不相成且仮合遊客之誘引ニ逢イ候トモ、他街ヘ一泊致シ候儀ハ嚴禁ニ候

一同断渡世致度者ハ此度相定候ケ所限リ差許候条、望之者ハ彼地ヘ引移リ、若又家ヲ移シ難キ者ハ本人彼地ヘ寄留ヲ願ヒ貸座敷渡世之者エ示談可借請、尤他街エ住居寄留トモ堅ク禁制ニ候

但寄宿座敷料等ハ双方相對ニテ取窮（ママ）借請候者ヨリ払方勿論候、附リ赤間関之儀ハ稻荷町表裏、岩国新湊三田尻部ハ中ノ関、熊毛部ハ室積、上ノ関ハ

室津井上ノ関、萩部ハ越ケ浜各一ヶ所宛ニ先相定候、其他ハ追テ可及註議候  
一同断場代等來客ト遊女ニ相對ニ而可取筈ニ付、時々増減有之候トモ勝手ニ任セ、貸座敷主ヨリ駈引致候儀ハ不相成候

一遊女渡世願出候節ハ、父兄并親類連印之上請人相立可願出候、但父兄居合無之者ハ、親類或ハ知音之者請人ニ相立可願出候

一同断渡世之者ハ為税金毎月人別金壹兩宛可相納候

一是追娼妓芸妓其他種々之名目有之候、今後ハ技ヲ売リ色ヲ売ルニ差別ナク、總テ右種類之者ハ遊女ト相唱可申候

但養女下女洗濯女等ノ名目ニテ、潜ニ技ヲ売リ色ヲ売リ候様之儀嚴禁ニ候条、若相働モノ於有之ハ親類組合ハ勿論近隣之者迄越度申付候条、互ニ氣ヲ付ヘク、若不審アラハ速ニ可申出候

一遊女渡世差許候儀ハ、是迫人之抱ト相成一時改業難相 成事故有之不得止分ニ限リ候儀ニ付、今後新規營業候儀ハ嚴禁ニ候

一太靴（ママ）持ト相唱候モノ、儀ハ、速ニ改業可致ハ勿論ニ候

一遊女芸者年季奉公人解放候上ハ、免許無之場所ニテ遊女渡世致候テモ不苦杯ト若心得違ヒ致候者於有之ハ不相濟事ニ付、此旨篤ト可相心得方一相犯者ハ嚴重処置ニ可及候

一同断之者共ニ改正之趣意、抱主ヨリ詳ラカニ不（消去）可申開、内密迷惑ヲ謀リ又ハ其世話ニ携リ候者之内、此機ニ乘シ売女引取養女或ハ種々之名義ヲ設ケ、再ヒ遊女渡世為致候所業、相働ニライテハ嚴重所置ニ可及候  
右為心得相違候也